

## 秋 探 検

木下順次（千葉市）

日 時：2011年10月8日（土） 9時30分～11時30分

場 所：大百池公園（千葉市） 天候：晴れ

参加者：子ども67名

担当指導員：田中裕一・山下美佐子・木下順次

毎年、10月のこの時期には、千葉市緑区にある大百池公園をフィールドに有吉中学校区の青少年育成委員会が行うウォークラリーイベントのお手伝いをしています。毎回秋のムシや草花を対象に子どもたちに3つのミニ観察会を体験してもらっています。今年は、一年生11名、二年生19名、三年生8名、四年生20名、五年生4名、六年生5名の合計67名の子どもたちが参加してくれました。

子どもたちは4つの班に分かれて、次々に我々のもとにやってきます。持ち時間は15分。ワンテーマ観察会は、内容もよく吟味して、一つでも二つでも記憶に残ることを伝えてあげたいと思います。今年4回目ですが、毎年参加してくれる子もいるらしく、前回とは少しづつ内容を変えてほしいとの事前要望があったため、今年のテーマは、木下は「クモのお話」（昨年までは土の中の生きもの）、山下さんは「ドングリについて」、田中さんは「草地の探検」としました。以下、各人の感想を一言づつ。

【田中さん】大百池公園の森の草地を利用し、生えている草を何種類見つけられるかのゲームをしました。殆どの子どもたちが、草むらで遊んだことはあっても、草むらの”草”を観察したことはありませんでした。持ち時間15分と短いので、やり方を簡単に説明して、すぐに草むらで5分間のゲームに入りました。子どもたちは、始め戸惑った様子でしたが、草を見つめているうちに要領が分かってきました。ゲーム終了後、子どもたちに成果を発表してもらいました。平均15～20種類、最高29種類の草を見つけました。ゲームにおける私のネライは、「どこが、どのように、ちがっていたか？」を、五感を駆使して見つけることです。子どもたちに質問してみると、「形がちがう」、「ギザギザがある」、「色がちがう」「ざらざらしている」、「臭い」と、私の期待に沿った回答を得ることができ、私としては成功でした。子どもたちが楽しんでくれたかが、気になりますが…。

【山下さん】参加者に6種類のどんぐりをあらかじめ拾ってもらい、どんぐりの特徴を絵と実物で話したうえで、自分で拾ったどんぐりの名前当てをしました。また、どんぐりの花、芽生え、コナラシギゾウムシの一生などを、絵を見せながらお話ししました。その後、絵(どんぐりの木と私 たち)でどんぐりの木の役割をみんな考えてもらいました。どんぐりシールのお土産は、みんな喜んでくれたようです。



【木下】クモの体の特徴(肢や眼の数)や網の形をクイズ形式で考えてもらい、あらかじめ捕獲しプラケースに入れておいたジョロウグモや実際に張ってある網をじっくり観察して確認しました。はじめは、クモと聞いただけでキャーキャー騒いでいた子どもたちが、森の中でのクモの役割や網の仕組みなどを知るにつれ、興味を持ってくれたことがとてもうれしかったです。観察会の後、「学校の図書室にも同じ本(説明に使ったクモの本)があるけど、今までは気味が悪くて見たことがなかった。でも今度、読んでみる一つ。」と話してくれた子どもの一言は何よりの励みになりました。